

## 自立貢献

### 「想定外」を生き抜く力の育成目指し避難訓練を実施! ～釜石の奇跡は、奇跡ではなく「率先避難者」による必然だった～

7月9日(火)の午後、地震・津波避難訓練が本校にて実施されました。今年度は、内間団地より西原町商工会へ避難場所を変更しての訓練となりました。安全面での立哨指導など、ご協力いただきました関係者の皆さま、ありがとうございました。

避難訓練の際、避難場所で生徒達に伝えたことは大まかですがまとめると以下の三点です。

#### ① 主体的に判断し行動する(逃げる・避ける)こと

東日本大震災でも教訓となっていますが、勝手な「思い込み」や「想定にとらわれない」ことです。災害は「まさか」という**想定外の連続**です。周りの空気を読まず、確かな情報を元に主体的に判断し、危機を回避する行動を素早くとることが大切です。「**自分の命は自分で守る!**」

#### ② 率先避難者、回避者となること

東日本大震災の釜石では、避難する子ども達につられ、大人達も逃げ助かった事例もありました。勇気を出して最初に避難する人、危機を回避する主体性のある行動がとれることが大切です。



#### ③ 災害時の約束を家族で話し合い確認すること

もしもの災害の際は、危険から逃げる、危険箇所を避けることが鉄則です。その際、危機回避能力の発揮が求められます。東日本大震災での「てんでんこ」という教訓があるように、津波の場合は、家族それぞれお互いを信頼し逃げる必要があります。その時、家族と集合場所など、いくつか約束し確認しておく必要があります。(裏面参照)

西原東中学校は「大人になるための学校」と常日頃から確認しています。避難する時も中学生は、「守られる側でなく、逆に守る動き」ができるようにとお願いしました。それは……

**自分より弱い立場にある小学生や、お年寄りを連れて逃げる、優しさやたくましさも意識し、頼れる地域の一員として災害に対する備えもしっかりと自覚することが必要とされています。**

### 善行少年表彰受賞! 「自立貢献」活動が認められました

5月25日(金)に浦添警察署に於いて「善行少年」の表彰がありました。本校からは、かなまるボランティアの活動が認められた個人の部の受賞と、朝の清掃活動での貢献活動が認められた団体の部の受賞があり、浦添警察署長より表彰されました。

これも、つながる東中学生徒育成会「かなまる会」へのご理解と、会員の皆さまの生徒の挑戦する機会や居場所づくり等のお陰と感謝しております。



2年4組  
宮平 沙和さん

女子バレーボール部  
朝の「あとしまつ」活動

#### 【メーリングサービス登録】

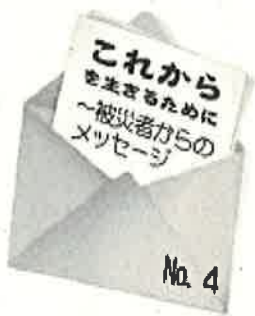
\* 生徒の活躍状況やHPの最新情報、台風、津波など、危機管理時に



#### 【本校ホームページ】

\* QRコードにて、カラー版の学校だよりや、その他、情報満載です!





# 三陸地方に伝わる教訓 「津波てんでんこ」とは？

河北新報社 編集局長 **今野 俊宏** Konno Toshihiro



近い将来やって来ると予測されている「南海トラフ地震」ですが、もし真冬の夜中にこれが起き、大津波がやって来たら、宮崎県だけでも約3万5000人が犠牲になるといわれています。しかし、同じ条件下であっても、津波警報を出すことができれば、「犠牲者数を1万4000人ほどに減らせる」そうです。

今後起こり得るこうした震災や津波に、どのような備えをしておくべきか。私たちの新聞もこの点について検証を続けています。

私が特に大事だと思うのが「家族で避難するルールを作る」ということです。

日中は家族みんながバラバラに生活しています。その日中に津波が来た時、それぞれがどこに逃げののかを記入し、それを家族がいつも目にする場所に貼って覚えておくのです。



河北新報 2011年3月14日朝刊記事より

東日本大震災でクローズアップされたのが「津波てんでんこ」という言葉です。

これは、「津波の恐れがある時は、親子兄弟に構わず、それぞれでんでんばらばらに逃げなさい。誰かを待ったり助けようとせず、自分の命は自分で守れ」という教訓です。

実は、これは非常に悲しい教えです。東北の三陸地方は、これまで何度も大きな津波に見舞われてきました。その中で生まれた、「どうすれば全滅せずに済むか」という苦肉の生き残り策なのです。

「人を見捨てる教えとはけしからん」と思われることでしよう。しかし今回の震災でも、家族や近所の人を助けに行き、亡くなった方がたくさんいらつしやいます。

この教えの前提となる非常に大事なポイントがあります。それが「家族、兄弟、友だちへの信頼」です。

どういふことかということ、非常に各自がどこに逃げるかを日頃から話し合い、「みんなきつと逃げていくはず」と信じた上で、各自が自分の身を守る行動をとるといふことです。

たとえば、岩手県釜石市では、津波で約1300人の方が亡くなりました。

しかし、この地域にある釜石東中学校と鶴住居小学校の生徒たちは全員助かりました。

これらの学校でやっていたのが、「とにかくすぐに高台に逃げる」「中学生は小学生を先導する」の徹底でした。

そして、「常日頃からお父さんやお母さんと、「私は高台にすぐ逃げるから、お父さんお母さんもすぐに逃げてね。絶対学校に迎えに来たりしないでね」と話し合うように」と指導していたのです。

こうした日頃からの防災への意識の徹底が、その二つの学校から1人の犠牲者も出さなかったことにつながりました。

(宮崎市立赤江東中学校で開かれた創立30周年記念講演会より)取材、編集、西隆宏(終わり)

2019 3/11/2780号 みやざき中央新聞より



○学校・保護者・地域住民及び関係者が「学校教育目標」や「めざす生徒像＝自立貢献」を共有し、地域ぐるみで子ども達を教育(郷育)していくことを目指しています。

\* かなまる尚円王(金丸)由来の地、本校に学ぶ生徒を、将来の地域・社会の担い手である金の卵として支え・囲む